



【証券コード:9651】

日本プロセス株式会社 決算説明会

2016年5月期第2四半期累計期間



平成28年1月12日

1. 2016年5月期 第2四半連結決算について

2. 今期の見通しについて

3. 次の中核ビジネスへの注力について

1. 2016年5月期 第2四半連結決算について

2. 今期の見通しについて

3. 次の中核ビジネスへの注力について

2016年5月期第2四半期 連結決算の概況

単位:百万円

	期首 計画	計画 対比	実績	前年 対比	前年
売上高	2,350	+425	2,775	+42	2,733
		+18.1%		+1.5%	
営業利益 (営業利益率)	80 (3.4%)	+167	247 (8.9%)	▲0	247 (9.0%)
		+209.0%		▲0.0%	
経常利益 (経常利益率)	100 (4.3%)	+169	269 (9.7%)	+6	263 (9.6%)
		+169.9%		+2.5%	
四半期純利益 (四半期純利益率)	89 (3.8%)	+86	175 (6.3%)	+15	159 (5.8%)
		+96.7%		+9.6%	

売上高

前年比: +42百万円 (+1.5%)

請負案件の検収時期前倒しや、工事進行基準適用案件があったことなどにより増加

営業利益

前年比: ▲0百万円 (▲0.0%)

一部セグメントで前年に大型案件を完遂したことにより減少するも、全体では前年並み

経常利益

前年比: +6百万円 (+2.5%)

受取配当金があったことなどにより微増

四半期純利益

前年比: +15百万円 (+9.6%)

法人税等の減少により増加

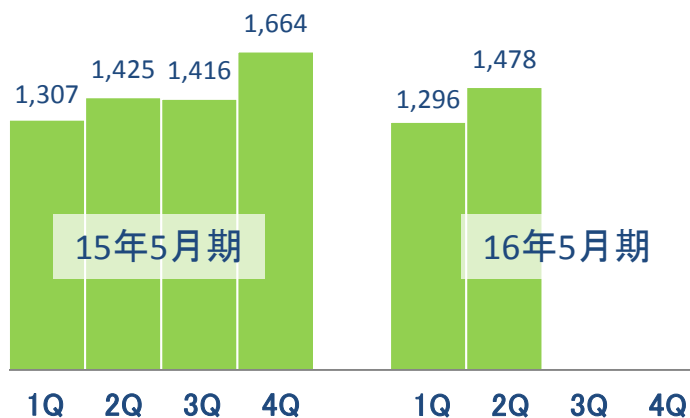
【トピックス】

- 産業・公共システム、ITサービス、組込システムなどが堅調に推移し、売上、利益とも期首計画をオーバー
- 注力分野の自動車は、複数セグメントの得意技術を結集し開発に着手
- IoTについては、セキュリティなど専門の協会、協議会に加入し、情報収集とワーキンググループ活動を開始

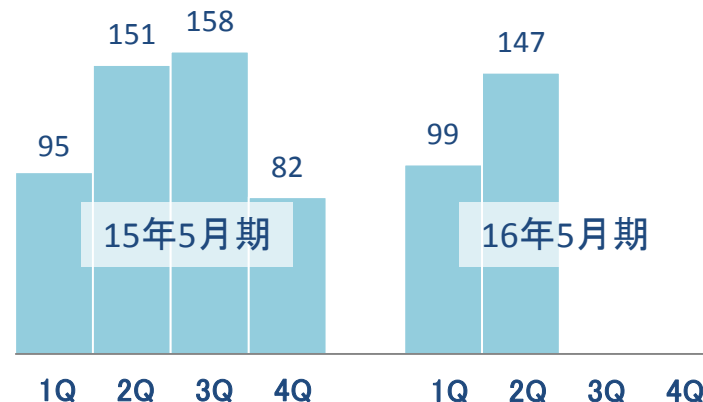
2016年5月期第2四半期 連結決算の概況(四半期推移)①

単位:百万円

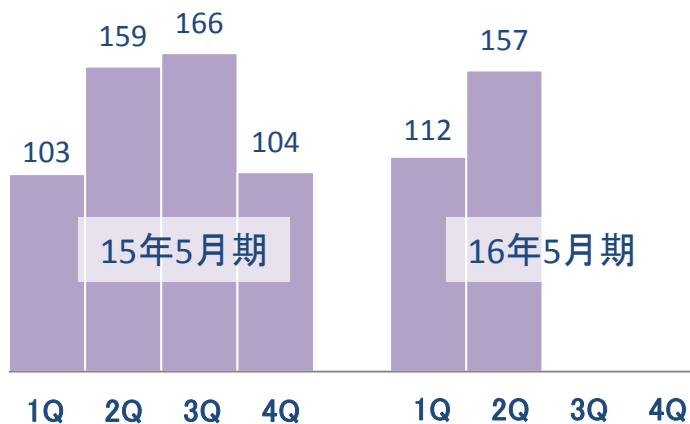
売上高



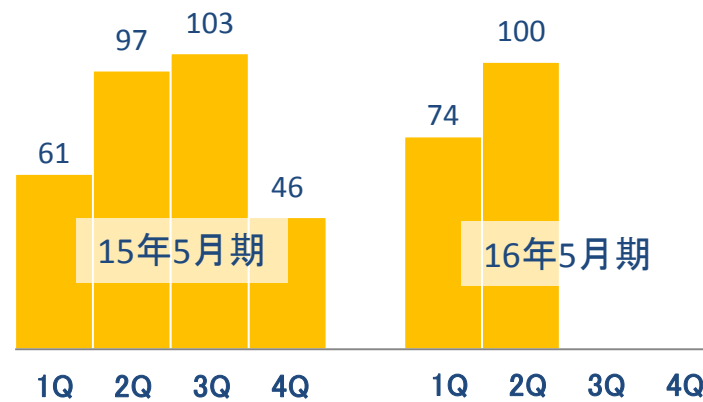
営業利益



経常利益



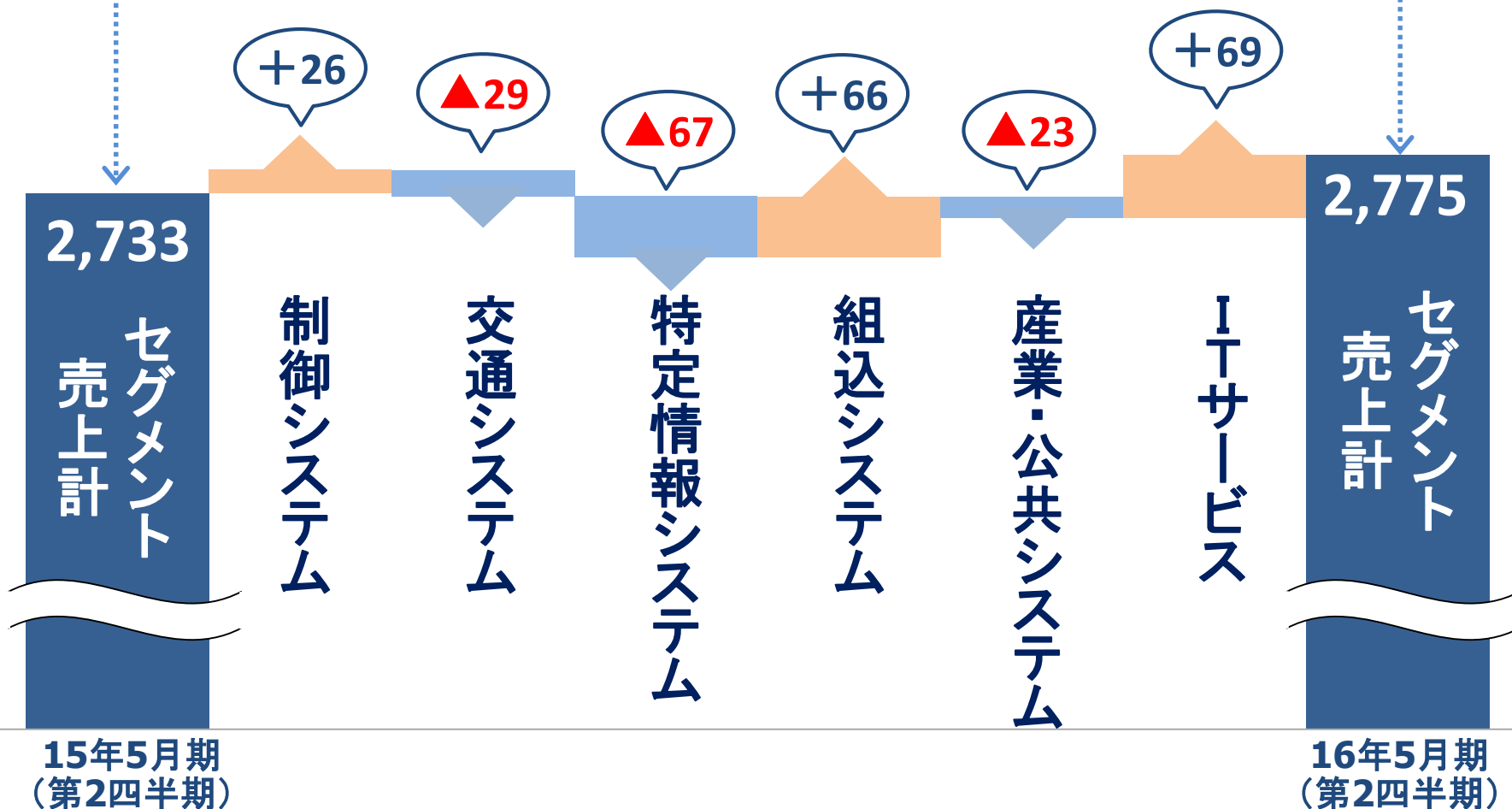
当期純利益



2016年5月期第2四半期 セグメント別売上増減

単位:百万円

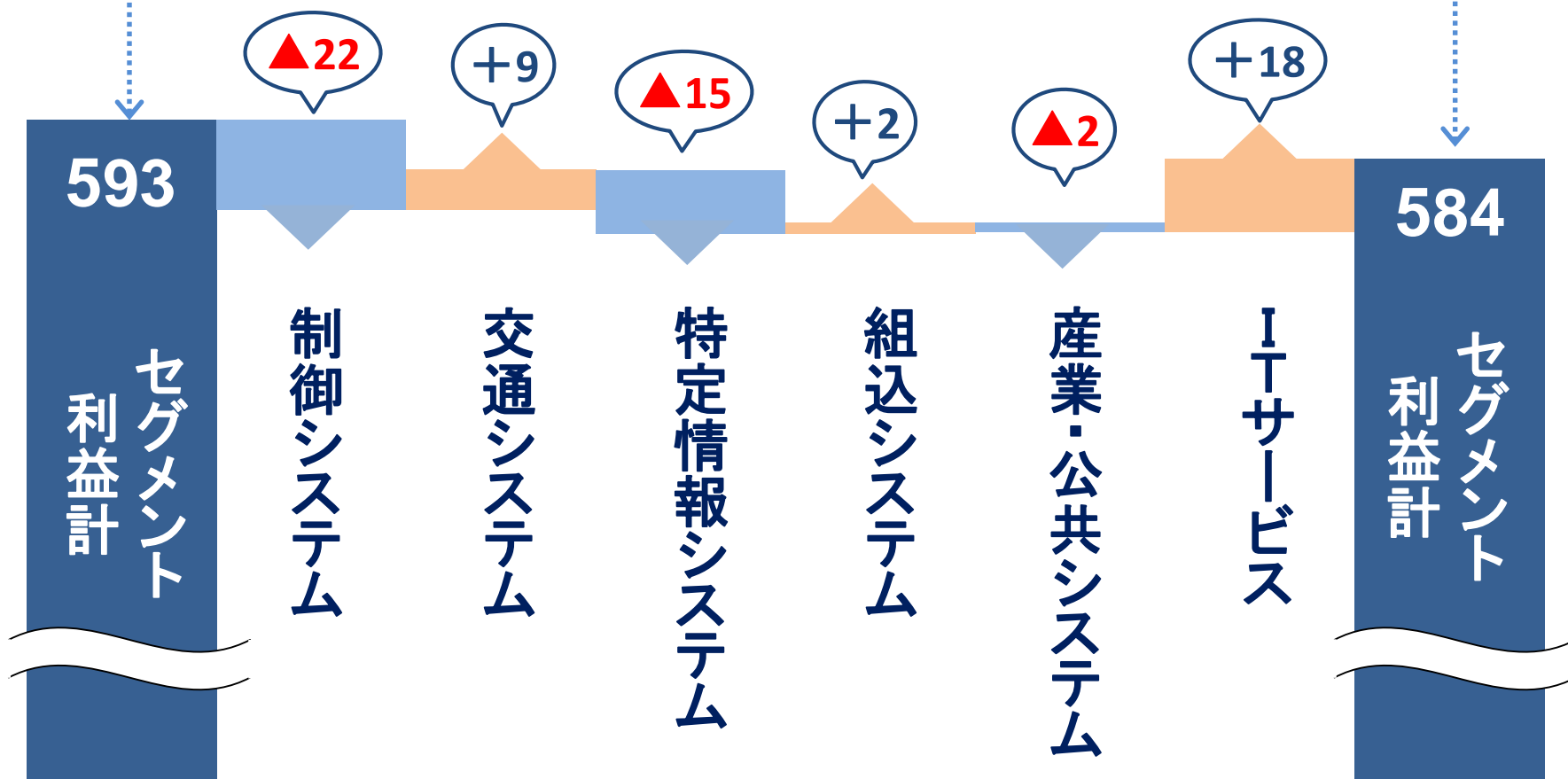
42百万円の増加 (前年同期比: +1.5%)



2016年5月期第2四半期 セグメント別利益増減

単位:百万円

9百万円の減少(前年同期比:▲1.6%)



15年5月期
(第2四半期)

16年5月期
(第2四半期)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

制御システム

- 発電所関連は国内外とも作業量が増加
- 自動車関連はエンジン制御からCVT(無段階変速機)制御にシフト
- 新たに安全運転支援システム開発を受注
- 技術者のローテーションを行ったことでオーバーアサインが発生し利益減

単位:百万円

セグメント		15年5月期 (利益率)	16年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
制 御 シ ス テ ム	売上	470	496	+26 (+5.6%)
	利益	116 (24.7%)	94 (18.9%)	▲22 (▲19.1%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

交通システム

- 在来線案件で下期に予定していた検収が前倒し
- 海外鉄道案件は試験フェーズとなり体制が縮小
- 新幹線は保守フェーズが継続、開発案件が減少
- 瑕疵対応が解消したことにより利益が改善

単位:百万円

セグメント		15年5月期 (利益率)	16年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
交通システム	売上	210	181	▲29 (▲13.8%)
	利益	15 (7.2%)	24 (13.7%)	+9 (+64.4%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

特定情報システム

- 請負案件が前倒しで検収されたものの、前年に大型案件を完遂したことで売上が減少
- 画像解析技術を活かして自動車の安全運転支援システム開発を開始

単位:百万円

セグメント		15年5月期 (利益率)	16年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
特定情報システム	売上	331	264	▲67 (▲20.2%)
	利益	72 (21.8%)	56 (21.3%)	▲15 (▲21.9%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

組込システム

- 車載情報システムの開発は、車載プラットフォーム通信ミドルウェアとも堅調に推移
- ストレージデバイス(SSD)はコンシューマー向け、企業向けともに堅調
- ストレージサーバは開発がピークに入り作業量増

単位:百万円

セグメント		15年5月期 (利益率)	16年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
組 込 シ ス テ ム	売上	619	685	+66 (+10.7%)
	利益	144 (23.3%)	147 (21.5%)	+2 (+2.0%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

産業・公共システム

- 準天頂衛星システムは体制が拡大
- ICカードとスポーツ関連システムは減少するも、コンビニ関連と文書管理が堅調
- 鉄道子会社向けエンジニアリングサービスは減少
- 放送システム、認証許可システムを新たに受注

単位:百万円

セグメント		15年5月期 (利益率)	16年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
産業・公共 システム	売上	657	634	▲23 (▲3.6%)
	利益	161 (24.6%)	159 (25.1%)	▲2 (▲1.5%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

ITサービス

- 検証サービスはデジタル機器関連が堅調
- 構築サービスは金融業向けが好調
- 保守/運用サービスは顧客の企業内情報システム
更改に伴い体制拡大、
- 会計システムが新規開発スタートにより好調

単位:百万円

セグメント		15年5月期 (利益率)	16年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
I T サ ー ビ ス	売上	443	512	+69 (+15.6%)
	利益	84 (19.0%)	102 (20.0%)	+18 (+21.6%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

単位:百万円

資産の部

負債/純資産の部

資産: 558百万円の減少

負債: 690百万円の減少
純資産: 131百万円の増加

9,359



8,800



—主な変動要因—

現金及び預金	+577
売上債権等	▲439
有価証券	+551
繰延税金資産	▲91
投資有価証券	▲494
長期定期預金	▲800

9,359



8,800



—主な変動要因—

未払金	▲76
未払法人税等	▲206
未払消費税等	▲77
賞与引当金	▲308
繰延税金負債	+25
繰越利益剰余金	+76
その他有価証券 評価差額金	+55

15年5月期 16年5月期
(第2四半期末)

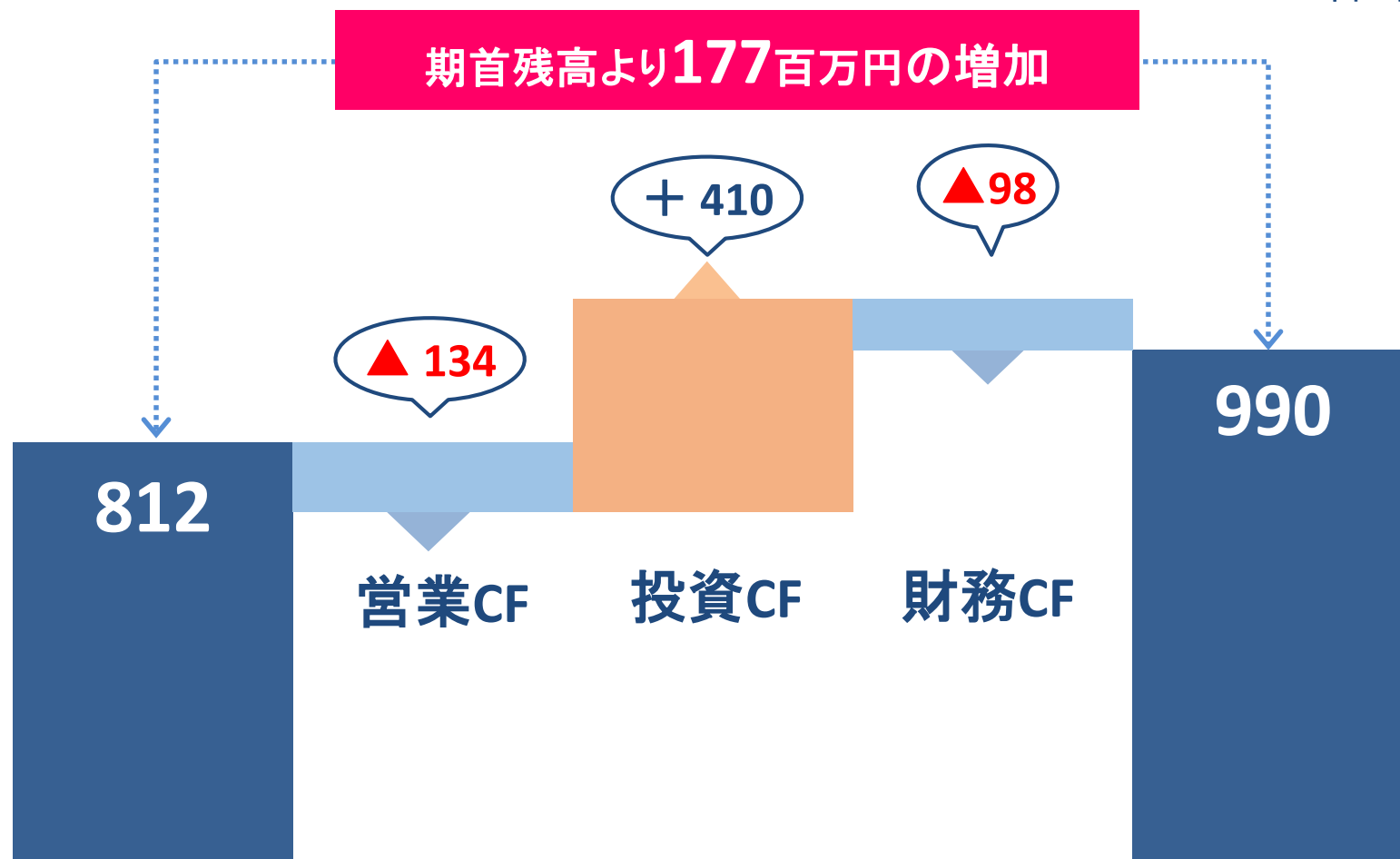
15年5月期 16年5月期
(第2四半期末)

財務指標(その他)

	15年5月期	16年5月期 第2四半期	(参考) 15年5月期 第2四半期
純資産額	7,827 百万円	7,958 百万円	7,737 百万円
1株当たり 純資産	1,590.07 円	1,616.81 円	1,571.81 円
1株当たり当期 (四半期)純利益	61.45 円	35.55 円	30.88 円
自己資本比率	83.6%	90.4%	88.9%
自己株式	822,634 株	822,634 株	822,634 株
従業員数	561 人	545 人	553 人

2016年5月期第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

単位:百万円



期首残高より**177**百万円の増加

812

▲ 134

営業CF

+ 410

投資CF

▲ 98

財務CF

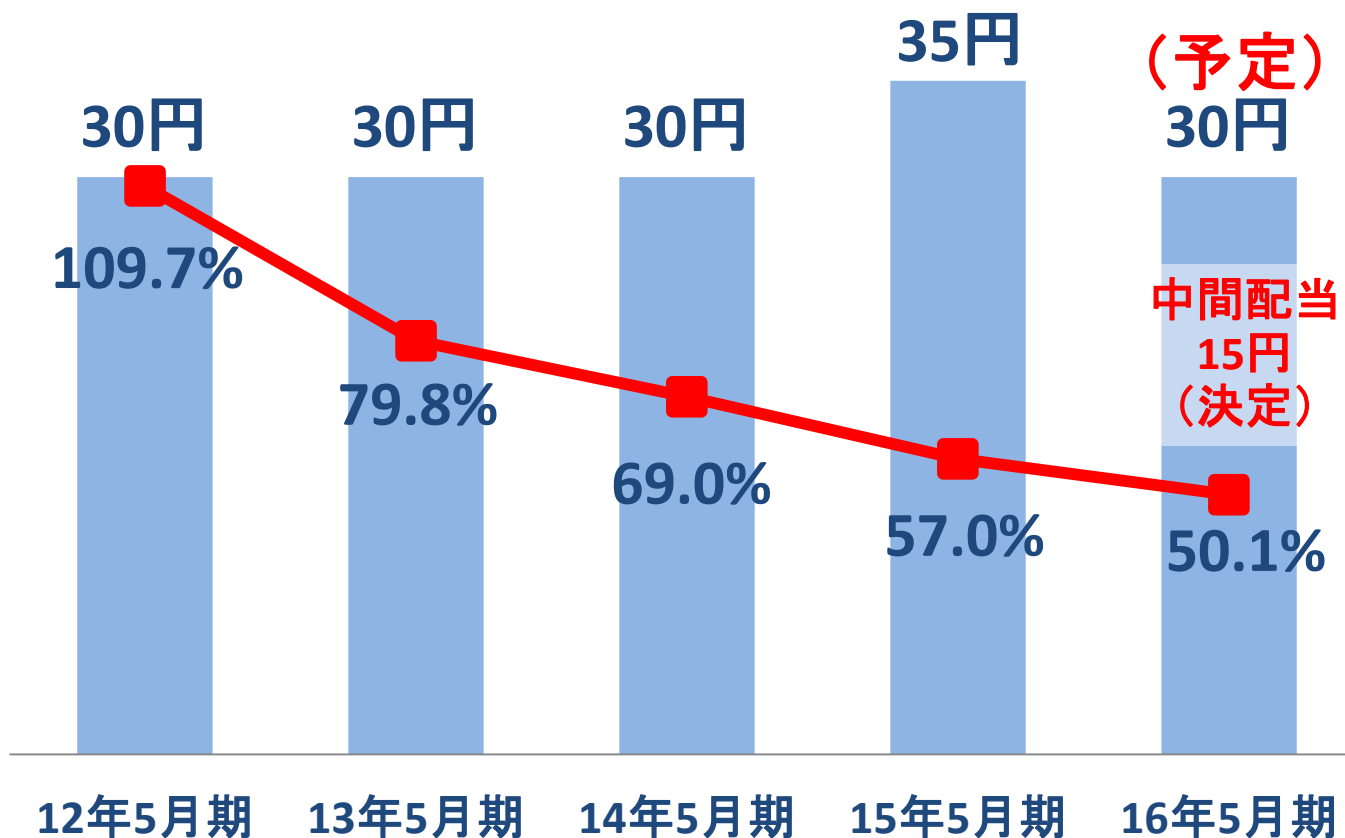
990

現金及び現金同等物の
期首残高

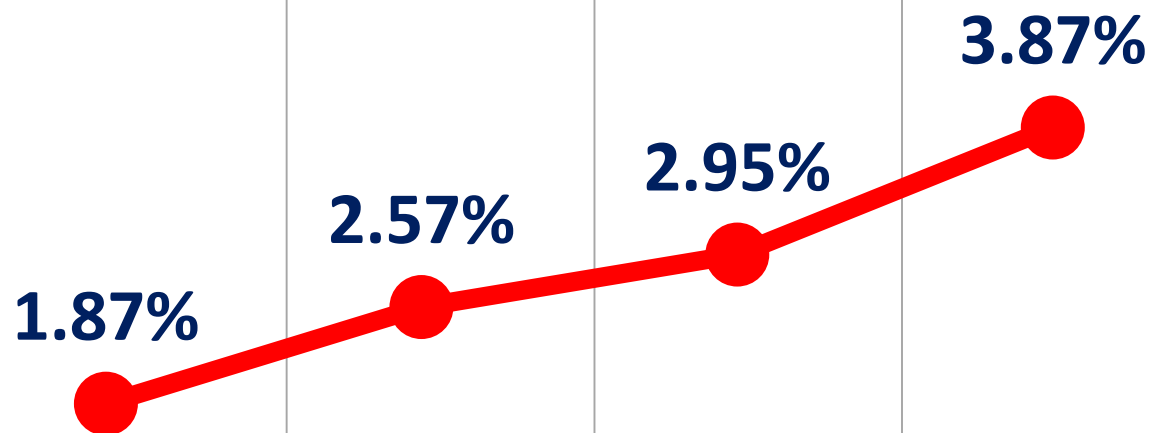
現金及び現金同等物の
第2四半期期末残高

配当方針

- ①安定的配当の継続 ②配当性向50%以上を目標



自己資本利益率 (ROE) の推移



	12年5月期	13年5月期	14年5月期	15年5月期
1株当たり当期純利益(円)	27.3	37.6	43.5	61.4
1株当たり純資産(円)	1,458.2	1,466.9	1,481.4	1,590.1
自己株式数(株)	200,092	200,092	200,134	822,634

1. 2016年5月期 第2四半連結決算について

2. 今期の見通しについて

3. 次の中核ビジネスへの注力について

◆制御システム

- ・エネルギー分野は発電所の監視・制御や制御コントローラ開発は横ばい
- ・自動車分野は堅調、安全運転支援システム開発は体制拡大

◆交通システム

- ・新幹線は大型請負案件が検収見込み
- ・在来線は開発量が増加

◆特定情報システム

- ・危機管理は作業量減、地理情報は横ばい

◆産業・公共システム

- ・ 駅務機器は好調、準天頂衛星は開発フェーズが終了
- ・ 鉄道子会社向けは4Qから体制が拡大
- ・ コンビニ関連は開発フェーズが終了

◆ITサービス

- ・ 検証サービス、保守・運用サービスとも概ね横ばい
- ・ 構築サービスは金融業向け作業がピークを過ぎ減少
- ・ 会計システムは新規パッケージ開発が堅調

◆組込システム

- ・ 車載情報は作業量減
- ・ ストレージデバイスはコンシューマー向けが縮小も他は横ばい

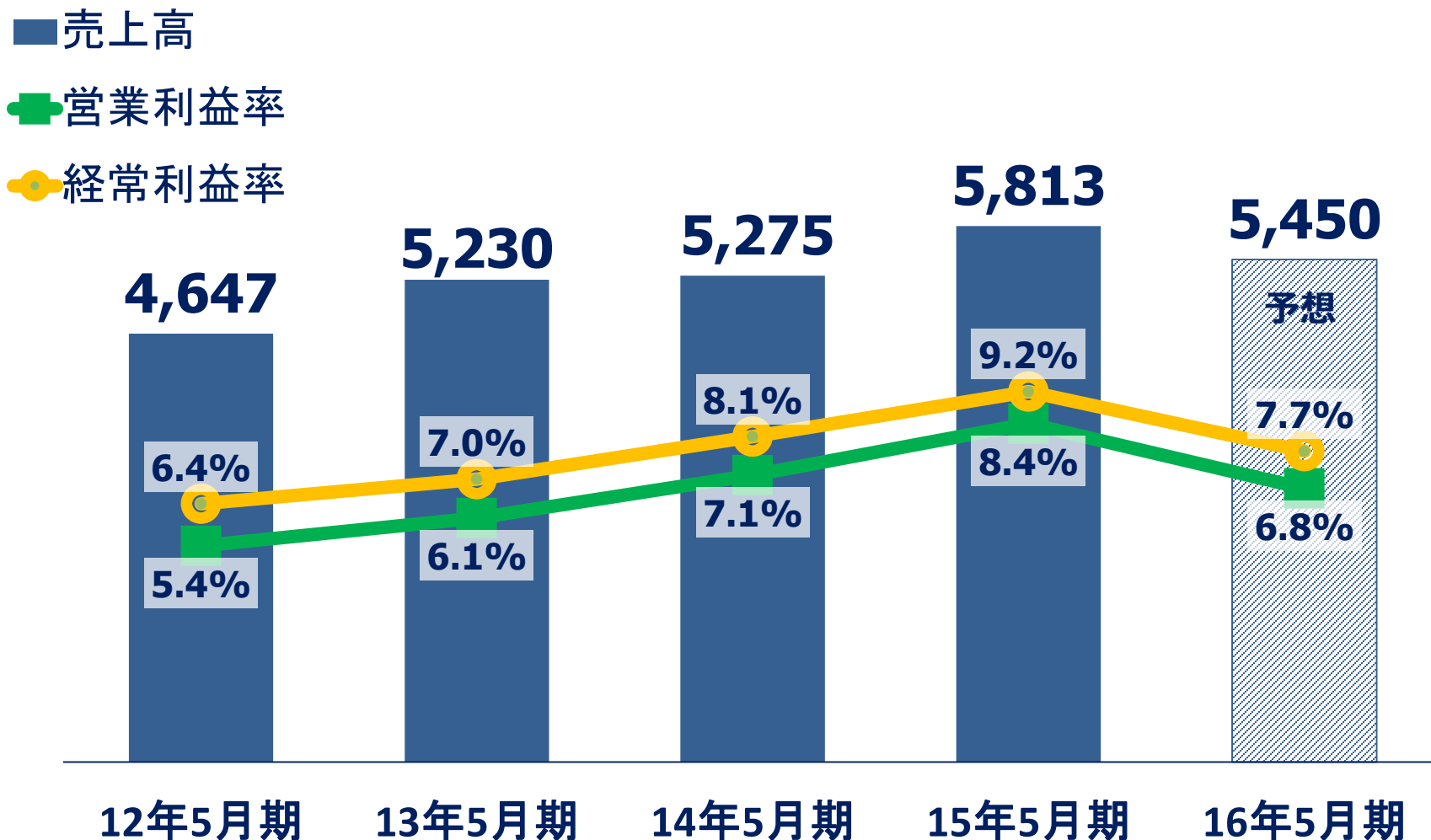
2016年5月期 連結数値計画

単位:百万円

	15年5月期 実績	16年5月期 見通し	増減額 (増減率)
売上高	5,813	5,450	▲363 (▲6.3%)
営業利益 (営業利益率)	487 (8.4%)	370 (6.8%)	▲117 (▲24.2%)
経常利益 (経常利益率)	534 (9.2%)	420 (7.7%)	▲114 (▲21.4%)
当期純利益 (当期純利益率)	310 (5.3%)	295 (5.4%)	▲15 (▲4.9%)

連結数値の推移

単位：百万円



1. 2016年5月期 第2四半連結決算について

2. 今期の見通しについて

3. 次の中核ビジネスへの注力について

第4次中期経営ビジョン(16年5月期～18年5月期)

社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

第4次中期経営計画 基本方針

1. 次の中核ビジネスへの注力

(1)自動車、IoT、環境・エネルギーへの投資

(2)顧客の海外展開に対応

(3)既存分野の深耕拡大

2. 人材への重点投資

3. T-SESへの取組みの再構築

次の中核ビジネスへの注力

当社の強み

- ◆ 交通システム 新幹線/在来線運行管理
- ◆ エネルギーシステム 発電所監視/制御
- ◆ 自動車システム パワートレイン制御、HV/EV
- ◆ 組込システム 車載情報、ストレージデバイス
- ◆ 特定情報システム リモセン画像解析、危機管理
- ◆ 産業・公共システム 公共サービス、駅務機器
- ◆ ITサービス システム構築、検証、運用/保守

社会インフラそのもの、社会インフラにつながるもの

自動車

IoT

環境・エネルギー

次の中核ビジネスへの注力

当社の強み

- | | |
|------------|-----------------|
| ◆交通システム | 新幹線/在来線運行管理 |
| ◆エネルギーシステム | 発電所監視/制御 |
| ◆自動車システム | パワートレイン制御、HV/EV |
| ◆組込システム | 車載情報、ストレージデバイス |
| ◆特定情報システム | リモセン画像解析、危機管理 |
| ◆産業・公共システム | 公共サービス、駅務機器 |
| ◆ITサービス | システム構築、検証、運用/保守 |

社会インフラそのもの、社会インフラにつながるもの

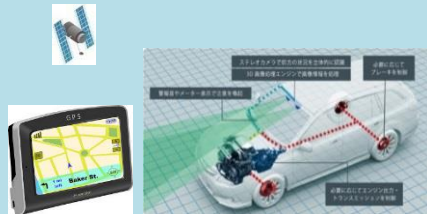
自動車

「走る、曲がる、止まる自動車」から



安全・安心

快適・便利



安全運転支援
自動運転

テレマティクス

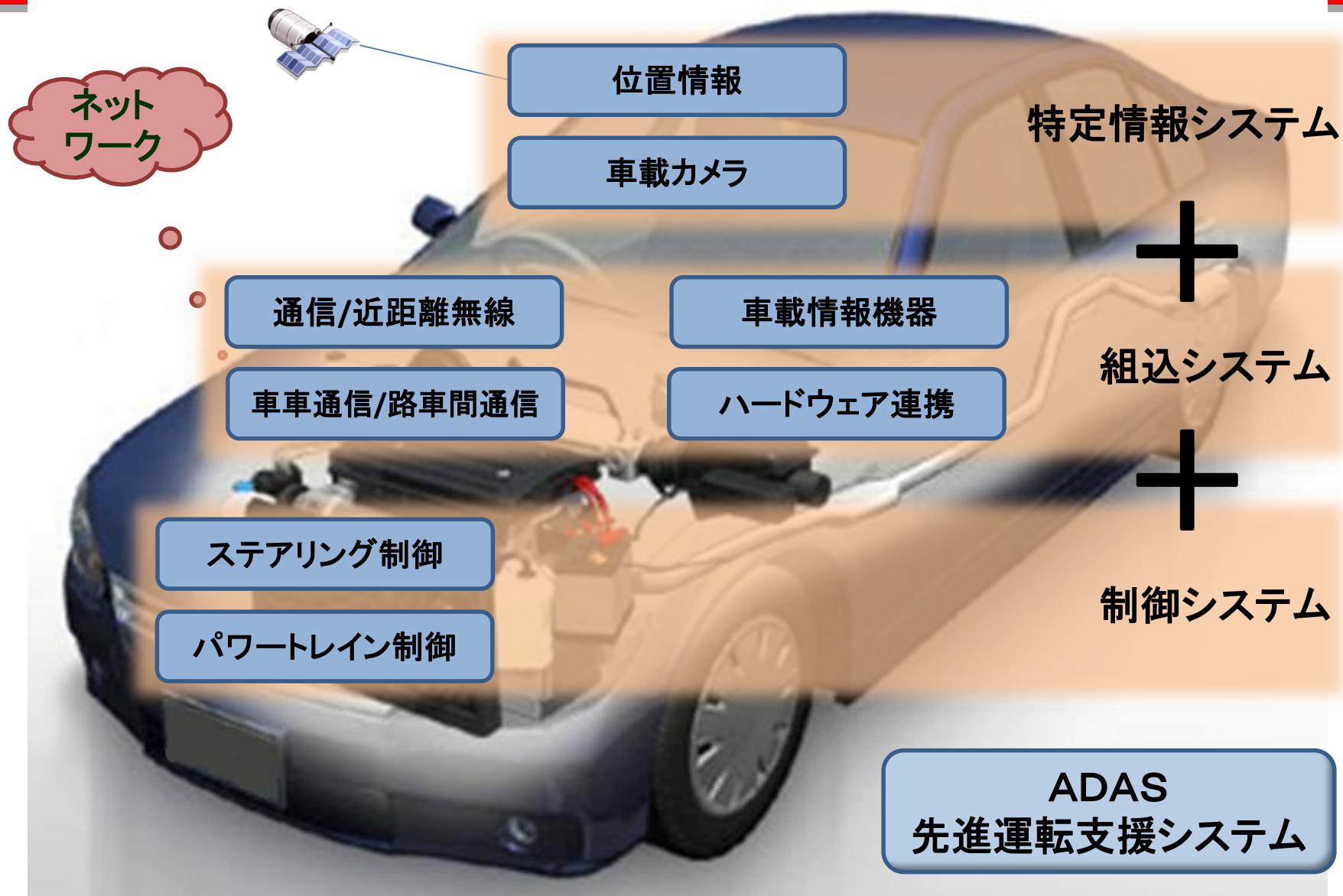
各種センサーや
パワートレインとの連携

社会インフラ

新たなサービス

「社会とつながる自動運転車」へ

JPD保有技術の融合



開発事例)

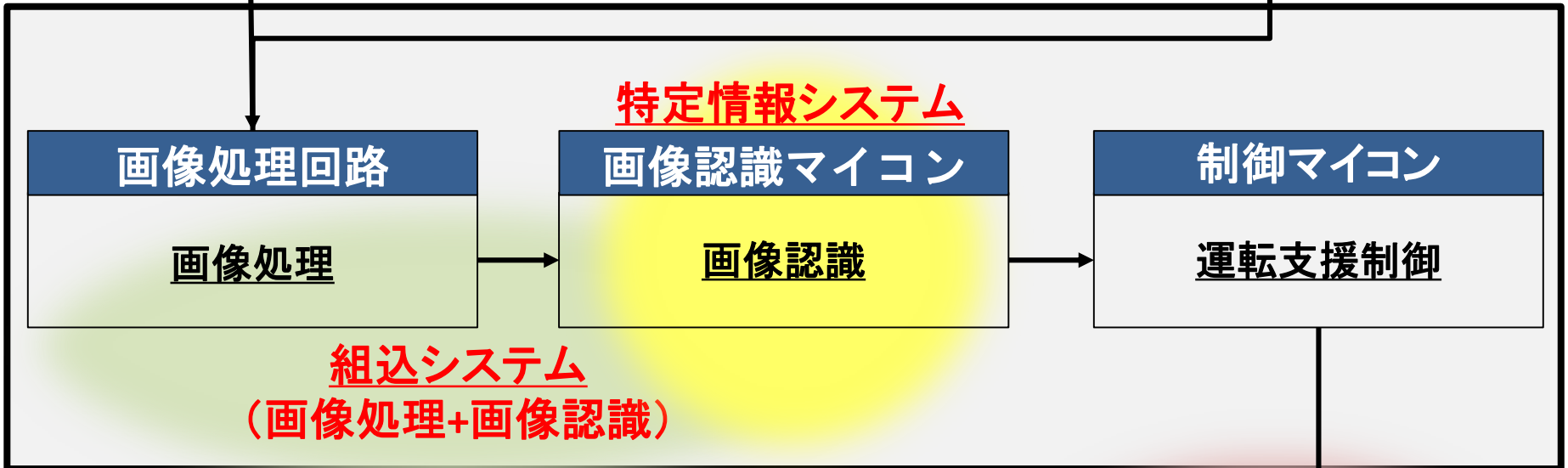
ステレオカメラによる運転支援システム



日本プロセス株式会社
JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO.,LTD.

左カメラ
CMOSセンサー

右カメラ
CMOSセンサー



制御システム

スロットル制御
変速制御
ブレーキ制御
etc..

当社の強み

- | | |
|------------|-----------------|
| ◆交通システム | 新幹線/在来線運行管理 |
| ◆エネルギーシステム | 発電所監視/制御 |
| ◆自動車システム | パワートレイン制御、HV/EV |
| ◆組込システム | 車載情報、ストレージデバイス |
| ◆特定情報システム | リモセン画像解析、危機管理 |
| ◆産業・公共システム | 公共サービス、駅務機器 |
| ◆ITサービス | システム構築、検証、運用/保守 |

社会インフラそのもの、社会インフラにつながるもの

IoT

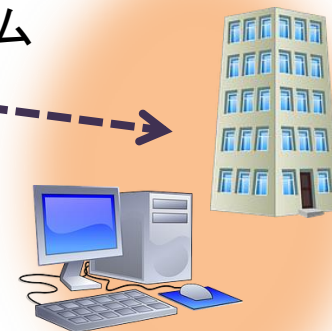
航空機エンジンメーカー



製品販売



リアルタイム



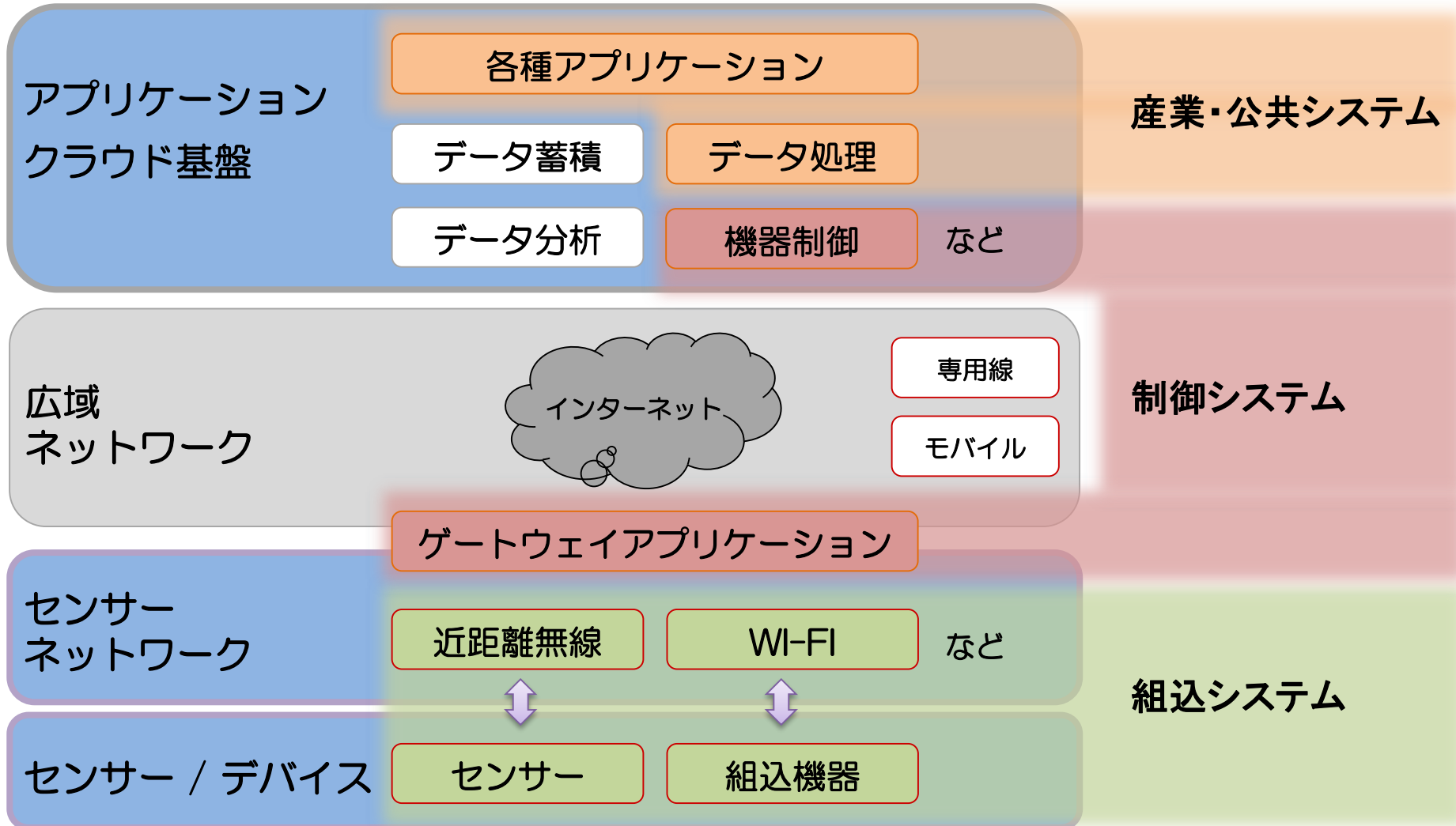
データ蓄積・解析

100個以上のセンサー

故障する前に事前に部品や修理を手配
航空会社に燃費削減を提案 etc.

製造業が新たな付加価値を提供
ソフトウェアの重要性が増大

IoT 当社がターゲットとする領域



IoT開発事例) スマート植物工場



USB無線デバイス

遠隔スケジュール
制御

産業・公共システム

(一般的な植物工場)

照明、温度、湿度、灌水、施肥、換気
などを自動管理

組込システム

LED照明ユニット



ON



LED照明ユニット



ON



LED照明ユニット



OFF

LED照明ユニット自体が無線データの中継



- どの植物に、何色のライトを、どのくらい当てるかをスケジュール管理
- 無線で照明ユニットへ指示、照明ユニット自体が他の照明ユニットへ中継
- シンプルな配線、レイアウト変更や照明ユニットの増減が容易にできる

当社の強み

- | | |
|------------|-----------------|
| ◆交通システム | 新幹線/在来線運行管理 |
| ◆エネルギーシステム | 発電所監視/制御 |
| ◆自動車システム | パワートレイン制御、HV/EV |
| ◆組込システム | 車載情報、ストレージデバイス |
| ◆特定情報システム | リモセン画像解析、危機管理 |
| ◆産業・公共システム | 公共サービス、駅務機器 |
| ◆ITサービス | システム構築、検証、運用/保守 |

社会インフラそのもの、社会インフラにつながるもの

環境・エネルギー

環境・エネルギーへの取組み

新しい街づくりとしてのスマートコミュニティのイメージ

コントロールセンター

- 地域の情報・エネルギー・交通を最適に管理するコントロールセンター
- 企業・自治体対住民、住民対住民の様々なサービスを管理・提供する拠点
 - 変動の多い自然エネルギーを地域内で有効活用するため、各家庭やオフィスで余った電力を地域内で有効利用
 - 電気バスや電気自動車の位置情報と充電状態を管理することで、交通管理とエネルギー管理を一体化

三菱重工(株)のイメージ図を参考に作成

発電

電力系統制御

エネルギー管理

鉄道

自動車

電気自動車を電力インフラとして活用



電力不足時:電気自動車→家庭
電力過剰時:家庭→電気自動車

スマートハウス



センサー

電池交換式の電気バス。将来的には複数台を連結して路面電車化



将来的に路面電車化も視野

架線レス路面電車

蓄電池を搭載した路面電車
駅での停車時:電池に充電
駅間の移動時:電池で駆動

急速充電ステーション

30分で80%充電

社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献します。

免責事項

本資料は作成時点での予測や仮説に基づく記述が含まれています。
これら将来の見通しに関する記述についてはその実現を保証するものではなく、
既知、未知のリスクや各種要因により実際の結果、業績と異なることがあります。

お問合せ

経営企画部 部長 米島英紀

keikibu@jpd.co.jp